

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

核廃絶に向け心新たに 山内原爆犠牲者慰霊式典

原爆投下直後、274人の被爆者を収容し、うち88人が亡くなった山内地区で8月6日、山内原爆犠牲者慰霊式典が行われました。

会場となった山内原爆犠牲者の碑には、児童や高齢者などが作った多くの折鶴が飾られ、遺族をはじめ地区住民、山内・水後小学校の児童など約130人が参加しました。

主催した山内地区社会福祉協議会の菟原元樹会長は「平和を願う私たちの思いに逆行し、世界で核拡散が広がっている。核廃絶に向けて心新たに、活動を継続したい」と誓いと追悼の言葉を述べました。



広島市長のメッセージを代読



参列者一人一人が焼香

山口県から参列した安富さん(93)は、「8月12日に弟が当時の山内病棟で亡くなった。9月上旬に遺骨を取りに来たときに、山内地区の皆さんに大変親切していただき、お世話になった。毎年、参列してきたが、もう高齢なので今年が最後になるかもしれない」と目頭を押さえていました。

山内原爆被害者の会と遺族は、山内自治振興センターで交流会を行い、当時の出来事を振り返っていました。

交通ルールを守ろう

総領小が交通安全教室

7月13日に総領小学校で、通学中などに交通事故にあわないように気をつけようと、交通安全教室が開催されました。

雨のため、予定していた自転車の乗り方の指導は行われませんが、児童は実際に起こった自転車事故の事例などのビデオを熱心に観賞しました。

総領駐在所の爲政誠さんから交通ルールや自転車の乗り方についてのクイズが出されると、児童はビデオから学んだことを振り返り、自信をもって元気よく手を挙げていました。

また、横断歩道の渡り方の指導や、普段から子どもたちの通学を見守っている交通安全協会総領分会の会員が、気づいたこと、注意することを児童へ話し、これからは交通事故にあわないよう交通ルールを守ろうと約束しました。



元気よくクイズに答える子どもたち

音楽や運動を通して 明るく暮らそう

口和の「朗人大学講座」が人気



古川さんの音楽講座

地域のお年寄りが集まって音楽や運動をする、口和の「朗人大学講座」が人気です。

今年は7月6日から講座が始まり、118人が入学。

音楽講座は古川由紀さんを講師に迎え、参加者は童謡や今話題の「千の風になって」などの歌や演奏を楽しみました。このほか、より明るく楽しく暮らせるように、グラウンドゴルフや社会見学など多彩な講座が12月までに4回行われます。

ふるさとで、新成人の門出を祝う

平成19年度庄原市成人式

平成19年度庄原市成人式が8月15日、庄原市民会館で行われました。

今年対象となった新成人は、昭和62年4月2日から昭和63年4月1日までに生まれた市内在住者および庄原市出身者454人で、そのうち319人が式典に出席しました。

滝口市長は「皆さんを育てたふるさとや家族のことを忘れず、強く・やさしく・たくましく、自らの意思と責任を携えてこれからの人生を歩んでいただきたい」と激励しました。また、新成人を代表し、桂藤和司さん(東城町)が「これからは全ての面において自分自身の責任と自覚を持ち、何事にも屈せず、若さと情熱を持って前進する覚悟です」と決意を述べました。

式典の後、国際ソロプチミスト庄原結成20周年記念協賛事業として、江戸家小猫さんと林家二楽さんが「芸を通じて贈るメッセージ」と題し、特別記念講演を行いました。2人は芸を披露しながら「最初はできなくても時間をかけてやり続けることによって芸は身につく。仕事をすることも人生を歩むこともそれと同じで、苦しくても踏ん張ってほしい」と新成人の門出を祝いました。祝賀パーティーでは、それぞれの近況を話しながら、懐かしい友との再会を楽しみました。



新成人を代表し決意を述べた桂藤和司さん



「家業を継ぐことや郷里で働くことはカッコいいこと。ふるさとを愛して、ふるさとに感謝してほしい」とメッセージを贈った。

恒久平和の確立をめざす

戦没者追悼式並びに平和祈念式典

庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典が8月22日、庄原市民会館で行われました。

式には各地域の遺族をはじめ市や市議会、関係機関・団体の代表者、小・中学生ら約600人が参列し、戦火に散った2,923人のめい福を祈り、恒久平和への誓いを新たにしました。



参列者が献花

式典で滝口季彦市長は「私たちは過去の戦争から学んだ教訓を風化させることなく、次の世代に継承する責任がある。21世紀を平和の世紀として恒久平和の確立をめざすとともに、郷土の発展に全力を尽くすことを誓います」と式辞を述べました。

また、関西吟詩文化協会による追悼吟詠、庄原児童合唱団による児童合唱、庄原格致高等学校による吹奏楽演奏などが行われました。

ロビーには市内の小・中学生が心を込めて作成した折鶴・寄せ書きなど22作品を展示。平和学習の一環としてイントラネット中継で式典を観覧した学校もあるなど、平和を願う子どもたちの姿が目立ちました。



遺族を代表し井澤聖昭さんがあいさつ

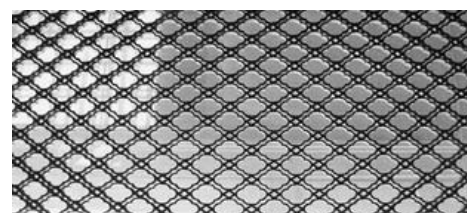
東城の町並みを見直す

まちづくりグループが三楽荘を見学

伝統ある東城の町並みを地域づくりに活かそうと、東城まちなみ再生ワーキンググループと東城まちなみ保存振興会のメンバーが7月27日、東城市街地にある旅館『三楽荘』を見学しました。

広島大学大学院で文化財などの研究をしている三浦正幸教授が建物について解説。

「三楽荘は明治中期から大正時代の建造物で、広い土間の梁は総ヒノキ、大黒柱は削った後に石灰をすり込み木目を出す仕上げがされている。奥の広間は『屋久杉』を贅沢に使い、欄間の細工は日本で一番繊細な造り。2度と建てることはできない県内随一、全国でも10本の指に入る建造物である」と賞しました。



日本で最も繊細な欄間『花吹寄菱格子』

参加者は今回の現地踏査で、東城市街地には三楽荘のように往時の繁栄を思わせる貴重な建物があること、また江戸時代からの建造物が数か所現存すること、さらに新建材の下には伝統、文化を色濃く残す建造物が数多く残っていることなどを学びました。

その後行われた意見交換会では、「この伝統ある町並みを活かしつつ、東城を盛り上げていきたい」という会員の熱い意見が相次ぎました。



三浦教授が三楽荘の解説

認知症の正しい知識を学ぶ

口和で認知症講演会

7月12日、口和老人福祉センターで認知症講演会が行われ、約90人が参加しました。

「みよしくリニック」の三好和輝院長が講師で、「普段の生活習慣などが認知症の予防や治療に役立つ。また、病気とうまく付き合っていくことが大切」と話し、参加者は認知症について正しい知識を学びました。

高齢化社会が進む中で、認知症は年々増え続けています。参加者は「他人事ではなくて身近な問題。安心して暮らせる地域づくり、環境づくりが大切だと思った」と話していました。



講演した三好院長

なぎなたフェスティバルが10年目

国体開催記念なぎなた競技大会



小学生から成年まで幅広く参加

今年で10回目を迎える「国体開催記念なぎなた競技大会」が8月17～19日の3日間、道後山高原クロカンパーク総合体育館で行われました。

この大会は、合同合宿と競技会をセットにした大会で、競技者と主催者が一緒になって運営しているのが特徴。今年は、和歌山県や兵庫県などから、12チーム61人の監督・選手が参加しました。

西城なぎなたこうじゅ会の森本清美会長は「小学生・中学生で選手として参加していた子どもたちが、今は高校生や大学生になり、スタッフとして手伝いに来てくれる。10年一昔と言われるが、この大会を通してみんなの成長が見える」と喜んでいました。

2日目の夕方には、「ふれあいの夕べ」が行われ、地元の特産品の比婆牛や手打ちそばなどを味わいながらの交流会を楽しんでいました。

クマに遭遇した時の対処法を学ぶ

高野小で「クマの学習会」

高野小学校（児童118人）が8月6日、「クマを知ろう」をテーマに学習会を行いました。

これは、7月にクマが人を襲う被害や、児童が子グマと遭遇したことから企画。ツキノワグマに関する正しい知識や、クマに遭遇したときの対処方法などを学びました。

講師のNGO東中国クマ集会の望月義勝さんは、クマの大きさや性質・食性などを頭骨や足型の標本などを用いて詳しく説明。児童はクマに遭遇したときの模擬体験をして、正しい逃げ方を教わりました。

望月さんは「通学するときは鈴を持つなどして、クマに出会わないようにすることが事故防止に一番大切」と呼びかけていました。



クマの標本を用いて説明

山の上で紙芝居！『今櫛山伝説』

夏休み子ども自然体験



紙芝居を楽しむ参加者

西城公民館が7月28日、「今櫛山探検に行こう！」をテーマに「夏休み子ども自然体験」を行い、小・中学生や保護者など29人が参加しました。

今櫛山には、大富山城主久代宮氏九代景盛公の息女、照白の前という姫君の悲しい伝説があり、その伝説を西城で美術教室の指導をしている主田純子さんが13枚の絵にして、おはなし会「ダンボ」の増永高子さんが朗読し、紙芝居を行いました。

紙芝居を楽しんだ子どもたちは、「おもしろかった！」と、迫力ある絵と語り口に感動。伝説に出てきた池などを見つめながらストーリーを振り返り、伝説の地「今櫛山」への愛着を深めていました。

森林と親しくなろう

西城の小学生が林業体験

広島北部森林管理署の出前森林教室が7月24日、ひろしま県民の森で行われ、西城小と美古登小の5・6年生52人が参加しました。

子どもたちは、ネイチャーゲーム、紙芝居、木工クラフトを通して、森林の働きや国有林の役割などを学習。「木工クラフト」は、サクラやクロモジ、マツボックリや広葉樹の輪切りなどを材料に、木の枝のキーホルダー、人形、動物のオブジェなど、思い思いの工作をして、木の良さを体験しました。

参加した子どもたちは、「森林がどんなに大切か、よく分かった。木工細工はとても楽しかった」と、完成した工作を見ながらうれしそうに話していました。

指導した泉係長は、「山や森林の大切なことを説明し、県民に親しまれる機関として『出前森林教室』などを実施している。これからも、要請があれば出向いて実施したい」と話していました。



木工クラフトに挑戦

夏の吾妻山を楽しむ

吾妻山グリーンラリーに14チーム

8月8日、第19回吾妻山グリーンラリーが開催され、64人が参加しました。

この吾妻山グリーンラリーは、木々や草花の名前を調べながらハイキングすることによって吾妻山の自然を理解し、ふれあいを深めてもらうことを目的として、毎年8月8日（葉っぱの日）に行われています。



沢の水温を確かめる



「この葉っぱは何？」と確認する子どもたち

比和文化会館・博物館で木々や草花の学習をした後、吾妻山へ移動し、休暇村吾妻山を起点として「ゆったりコース」「がんばりコース」の2つのコースに分かれ出発。「がんばりコース」は休暇村から吾妻山山頂を経てキャンプ場までの約5kmのコースで、15のチェックポイントがあり、樹木図鑑などで一つ一つ種類を調べながら、ゴールを目指しました。

参加者は「いろんな植物の名前を覚えることができて良かった」「来年はがんばりコースをチャレンジしてみたい」と話していました。

雪害を受けた文化財を修繕

荒木家住宅の修繕工事が完了

平成18年豪雪により大きな被害を受けていた国指定重要文化財荒木家住宅の修繕工事がこのほど完了しました。

この修繕工事は、平成18年11月から始まり、総事業費は約3,950万円。壊滅的な打撃を受けた茅葺屋根がきれいに葺き替えられ、見事に修繕されています。

荒木家住宅は、17世紀末（江戸時代初期）に建てられた森脇八幡宮の神官の家で、神官の家の特徴でもある「たかま」や牛を飼育するための「だや」、農業をする「うすにわ」などがあり、約400年前の建築様式や生活様式を今に伝えている重要な文化財です。

建物の見学などを希望する方は、比和教育課（☎0824-85-3005）までお問い合わせください。



きれいになった荒木家住宅

マラソン日本代表の小崎まり選手が西城に

世界陸上2007大阪に向け調整

「世界陸上競技選手権大阪大会」（8月25日～9月2日）に、マラソン日本代表選手として2大会連続2回目の出場を果たした小崎まり選手が、8月13日～15日の3日間、道後山高原クロカンパークで大会前の調整トレーニングをしました。

「小さい頃から走るのが好きで、生活の一部という自然な感じでやってきました。私の走りを見て、自分も走りに行こうかなと思ってもらえるような楽な走りがしたい」と話す小崎選手。



トラックでの出場を合わせると3回目の世界陸上

10年前から毎年2～3回、クロカンパークで練習しているという小崎まり選手は、「ここは芝生コースで長い距離があり、足にやさしく故障しにくい。また、手入れがよく、走りやすい」と感想を話していました。

クロカンパークは昨年度、土のトラック8レーンのうち3レーンを全天候型のウレタン舗装に改修し、今後さらにトップアスリートが集う合宿地として期待されます。

めざせ！自己新記録

市内小学生が水泳記録会

第42回庄原市少年少女水泳記録会が7月28日、庄原小学校プールで行われ、市内の小学校28校から5・6年生344人が参加しました。

子どもたちの心身を鍛え、水泳能力の向上を図ろうと、庄原市少年少女スポーツ振興会と市教育委員会が主催。児童は各学年、男女種目別に泳ぎ、自己新記録に挑戦しました。児童がスタートラインに立つと、各学校から大きな声援が送られ、泳ぎが得意でない子どもたちも、その声



自己新記録を目指してスタート



周りから大きな声援が送られる

援に応え最後まで力を振りしぼってゴールを目指していました。

大会新記録が4つも出たことに、大会関係者は「各学校がこの記録会に向けて取り組んでいる成果。市内の小学生が一堂に会することでお互いに刺激しあい、子どもたちの向上心を高めることにつながっている」と話しています。

9月29日（土）には、市内の小学生が集い、陸上記録会を予定しています。

知っておきたい

緊急時の対処法

乳幼児救急法を学ぶ

8月1日、東城子育て支援センター「こどもの館」で、乳幼児救急法の講習会が行われ、約20組の親子が参加しました。

乳幼児に多く見られる誤飲や熱傷・けいれん・熱中症などの対処法について、東城消防署職員から講習を受けた後、参加者全員で人形を用いて心肺蘇生法の実技を行いました。

「心臓マッサージの際、力を入れすぎて骨が折れないか心配」「いざというときに心肺蘇生法が正しくできるかどうか不安」といった参加者の声に対して、消防署員は「子どもがぐったりしていると親はパニックになって当然。救急車が到着するまで、できることだけでも続けてほしい」と話していました。



心臓マッサージのポイントを説明

地域づくりのヒントがいっぱい

自治振興区活動報告会



会場いっぱい poster 展示

各地域を代表して6自治振興区が発表

自治振興区活動促進補助金を活用し、特色ある地域づくりを行った自治振興区の成果を発表する「庄原市自治振興区活動報告会」が8月4日、庄原市ふれあいセンターで行われました。

地域づくりのヒントを得ようと、自治振興区の関係者ら約150人が参加。各地域の代表者が活動内容を発表したほか、会場内に各自治振興区が活動内容をまとめたポスターを展示しました。

成果発表の後、審査委員長である広島県立大学の野原建一教授は「それぞれの活動には、事業を通じて地域の良さを見つけ、それを誇りにつなげるなど共通点が見られる。今後は、活動の継続性や女性の参加、これまで補助金を受けていない自治振興区へ申請を呼びかけるなど、活動の輪を広げていくことが大事」と講評しました。